

## I C Tを活用し、学びの質を高める授業

新地町立尚英中学校 (代表) 校長 荒木 清隆 教頭 高瀬 永志

### 1 研究の趣旨

平成23年度に、総務省の「フューチャースクール推進事業」並びに文部科学省の「学びのイノベーション事業」の採択を受け、平成24年度「生徒の興味・関心を高め、生徒が主体的に学習に取り組むためのI C Tの活用」、平成25年度「I C Tを活用して、わかる授業を目指す学習活動の工夫」をテーマに、実践に取り組んできた。

これらの事業により、本校にはI C T機器が整備され、I C T支援員の配置、町のI C Tランドデザイン等によりI C T環境が整った。各教科で「一斉学習」「個別学習」「協働学習」それぞれの学習場面でI C T機器の特徴を生かし授業の改善に取り組んできた。現職教育では、学びの質を高めるために次の3つの視点で、授業改善の研究の柱とし実践を積み重ねてきた。

- ・ I C T機器を授業展開の中でどのように効果的に活用するか指導方法の工夫・改善
- ・ I C Tに関わる教材の開発や授業の構成・展開を教育内容と教育方法の両面から工夫・改善
- ・ デジタル教科書の効果的な活用

### 2 研究の概要

(1) 一斉授業によるI C T機器の活用 ～各指導過程における教材提示の工夫～

- ① パワーポイント自作教材を用いた指導
- ② I C T活用支援ソフト (SKYMENU) や書画カメラによる生徒の考えや作品の共有
- ③ 教師用デジタル教科書を活用した指導

(2) 協働学習におけるI C T機器の活用 ～タブレットP Cを活用したグループ学習指導の実践～

- ① W e bサイトで情報の発信や収集を行う活動
- ② デジタル模造紙を利用した意見の交流や協働制作
- ③ テレビ会議システム等を利用した交流学习

(3) 個別学習におけるI C T機器の活用 ～タブレットP Cを活用した個に応じた指導の実践～

- ① L M Sを活用した個別学習と評価の蓄積
- ② タブレットP C持ち帰り教材の作成と学習意欲の向上
- ③ 情報モラル教育の推進

### 3 成果と今後の課題

(1) 成果について

- ① 教員がI C T機器を特別な機器ではなく通常の教育ツールとして活用できるようになった。
- ② 基礎・基本を身に付ける場面や、授業の課題を展開する場面ではI C Tを活用しての効率化・コンパクト化を図ることができた。
- ③ 習得したことを活用する力を身に付ける場面では、I C Tを使って自分の考えや思いを発表したり、話しあったりする活動を充実させることができた。
- ④ 個別学習では、個の実態に応じた学習時間をより確保できた。
- ⑤ 生徒の主体的な情報の収集、表現、発信、伝達などの活動により情報活用能力を高めるための活動ができた。
- ⑥ 地域や文化、震災等の経験を他者に紹介・説明することにより自己の理解を深めることができた。

(2) 課題について

- ① I C T機器による指導と従来の指導方法の見極めができるように研究を進める必要がある。
- ② 相手に伝えるための表現力の向上が必要である。
- ③ 情報モラルを身に付け、I C T機器の利点を自由に使いこなせる力を身に付けさせたい。
- ④ 機器の維持、保守管理と新たな職員への研修が必要である。